

源頼朝と富士の巻狩

1192(建久3)年、源頼朝は、鎌倉幕府の初代将軍となりました。

頼朝は、将軍としての実力を天下に示すために、軍事演習として各地で巻狩を行いました。

巻狩とは、イノシシやシカなどの獲物を大勢で四方から取り囲み、追い詰めて射止める狩りのことです。

1193(建久4)年5月、頼朝が富士の裾野*で行った約1か月間の大規模な巻狩は、「富士の巻狩」といわれています。

※現在の御殿場市と富士宮市(朝霧高原一帯、人穴、白糸、上井出、北山など)

富士の裾野巻狩之図

江戸時代の浮世絵「富士の裾野巻狩之図(富士山かぐや姫ミュージアム蔵)」には、富士の巻狩に多くの武士が参加している様子が描かれています。

棒を持ち、犬と一緒に獲物を追い立てる勢子(左下)や、追い立てられた獲物を弓矢で射たり、槍で突いて仕留める射手(中央)など、役割を分担して巻狩を行っていたことがわかります。

この図では、頼朝が、高台から巻狩の様子を見守っていたように描かれています。

駒立の丘

上井出の北側にある小高い丘は、頼朝が巻狩の様子を眺めたとしており、駒立の丘といわれています。

その記念として、江戸時代と明治時代に駒立観音が造られました。



見返集会場の西側にある駒立観音大菩薩

頼朝と富士山本宮浅間大社

頼朝は、富士の巻狩の際、武将を連れて浅間大社を参拝し、戦への勝利と国の安泰を祈願したと伝えられています。

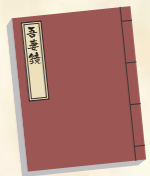
頼朝の奉納によって、浅間大社で流鏝馬が始まったとされています。

浅間大社では、毎年5月5日に、流鏝馬を奉納する神事(古式流鏝馬式)が行われています。



市指定無形民俗文化財「富士山本宮浅間大社流鏝馬」

流鏝馬は、走っている馬の上から弓矢で的を射る日本の伝統的な武芸で、平安時代末期から鎌倉時代に武士を中心に武術訓練として広がりました。



吾妻鏡は、鎌倉時代の歴史書で、鎌倉幕府の初代将軍の源頼朝から第7代将軍までの将軍記が記されています。

武士の子なら当然

吾妻鏡に記されているお話です



頼朝は、10才となった長男の頼家(北条政子)に連れられて行きま



ここで頼家は、初めて鹿を射止



頼朝はこれとても喜び、鎌倉に



報告を受けた政子は「武士の子なら当然。使者などいらぬ。」と感

